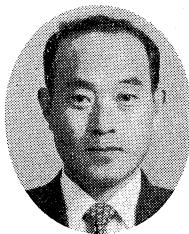


「鉛筆の持ち方」考



高橋弘寿

最近の児童の姿を見ていて、気なることの一つに、鉛筆の持ちかたがあ

鉛筆の持ちかたは、人差し指と「持」とで鉛筆を軽くおさえ、それに親指を添え、さらに、人差し指のつけ根付近

その児童は、毎日の学校生活の中で、児童自身は気づかないが、かなりのハンディを背負わされている。

ます。その児童は、指先と手首のやわらかさに欠けるため、どうしても書

が見られる。もちろん、きちんととした文字を書くことは、なかなかむずかしいことであろう。

ことである。

これに類したことには、「箸づかい
結ぶ、しばる、折る、たたむ、切る、
けざる」など数多くあるが、いずれも
ここ二十年くらいの間に、おとなから
見て「へたになつた」と言われてゐる

鉛筆の持ちかたは、一見ささいなことのように見えるが、これは、學習における基本的な行動様式を支えるために欠かすことのできない技能的な要素であろう。

に行く。ところが、持ちかたの悪い児童、多くは、正常な視線では筆先が見づらいため頭と背中を横に曲げて文字を書く。書写姿勢の悪さの原因の一つがこのようなどころにあると思われる。

これは、生活の様変わりから、今まで使われてきたものが、次第に使われなくなつたという一面もあるが、中には、正しく伝承されていないというものも數多くあり、鉛筆の持ちかたなどは、明らかに後の例ではなかろうか。

また、一つの基本的な行動様式と、生活の中の技能的なこととの関係を考えてみると、いくつかの技能的なことが組み合わされて使われたとき、一つの基本的な行動様式となり、また、それらが組み合わせられたとき「作法」となると思う。

鉛筆の持ちかた以外に、箸つかいの
ように昔からずっと伝承されている技
能も数多い。それらの中で、何を残し
ていくことが必要かの検討も大切であ
ろう。

社会一般が、児童たちに伝承せねば
ならぬことさえ、見失い始めている現
在、わたしたちの課題はつきないので
ある。

す手順や過程、努力を問題にしない短絡的ないきかたなどが原因していると思われる。鉛筆の持ちかたなどは、字が書けさえすればよいとして、字を書くために必要な技能的なものへ目を向けようとしないことの結果であろう。正しい鉛筆の持ちかたが、合理性としなやかさを持ち、また、美しい姿勢にまで結びつくことを、おとなは知らねばならないと思う。

今、基本的行動様式や作法がくずれ始めているのは、それらを支えているいくつかの技能的なものが、じゅうぶんに伝承されていないためであろう。

それは、従来の基本的な行動様式や作法が、現代には合わないもの、やつかりなものとする考えが存在することや、結果だけを評価し、結果を導きだす

学校生活の中で、基本的な行動様式の見なおしとか、それらを身につけさせようとするとき、それを支える技能的な要素をきちんとおさえ、しかもそれを、徹底させることが大切である。

うに、基本的な行動様式と言われるものをお支える技能的な面に、わたしたちはもっと目を向けることが必要ではないだろうか。